

構想の概要版 | テーマ:長生きを、楽しみにできる社会へ

年金で暮らせる、 もうひとつのふるさとを全国に。

老後の不安と地方の過疎・空き家を一つの仕組みで解き、
全国のまちを季節に合わせて住み替えられる新しい社会モデル

公的年金コロニー構想(仮称)

呼びかけ人:一般社団法人 確定拠出年金調査広報研究所(DC広研)
2026年10月 意見交換用



都市:老後の不安

- 「老後の生活が心配」は二人以上世帯で78.2%
- 単身の高齢無職世帯は毎月約3.0万円の不足
- 「住居」の物価は東京都が岡山県の1.64倍

地方:過疎と空き家

- 過疎市町村は全国の51.5%、国土の63.1%
- 空き家は900万戸、空き家率13.8%で過去最高
- 使われていない空き家は385.6万戸

人が減る地域には住まいが余り、人が集まる都市では住まいが高い。このねじれを解きます。

出典:金融経済教育推進機構(J-FLEC)「家計の金融行動に関する世論調査 2025年」(2026年1月21日訂正版)、総務省統計局「家計調査報告(家計収支編)2025年平均」〈参考4〉

総務省統計局「消費者物価地域差指数(小売物価統計調査 構造編)2025年結果」、総務省「令和5年度版 過疎対策の現況(概要版)」(2025年3月、2024年4月1日時点)、総務省統計局「令和5年住宅・土地統計調査」(2023年10月1日時点)



空き家を活かし、公的年金の範囲で、医療・介護に支えられて暮らせる生活圏を全国につくり、ネットワークでつなぎます。

01 年金内で暮らす

住まい・食・移動を共同化し、年金収入の範囲に収める

02 医療介護が軸

地域包括ケアを中心に、最後まで住み続けられるまち

03 仕事を生む

食堂・見守り・改修・まちやど運営を地元が担う

04 季節で住み替え

夏は涼しいまち、冬は暖かいまちへ。会員制で住んだ分だけ負担

入口: 企業の制度運営の現場

DC広研は企業型DCの制度運営支援を通じ、60歳以降の働き方・企業年金・公的年金の繰下げ(70歳開始で42%増)を考える加入者に、出口の選択肢として紹介できます。

着想の参考: 権丈善一「高齢者は経済の宝、社会保障で地方創生は可能」(東洋経済オンライン、2020年)、香川県高松市「仏生山まちぐるみ旅館」

進め方と、協力の呼びかけ



2026年度下期～2027年度

発信と意見交換

構想の公開、興味あり登録
の受付、意向調査

2028年度

候補地の選定

自治体ヒアリング、費用試
算、スポンサー募集

2029年度

トライアル

1地域で1～3か月のお試
し暮らし

2030年度～

本格開設・横展開

運営ノウハウをまとめ、各
地へ

関心のある方へ

興味あり登録で、更新情報
と意見交換の案内を受け取
る

自治体へ

トライアル地域・世話役の配
置

企業・金融機関へ

協賛、企業版ふるさと納税
での寄附

地域の事業者へ

住まい・食・医療介護での参
画

最初の一地域を、ともに

意見交換と参加を呼びかけています。

一般社団法人 確定拠出年金調査広報研究所(DC広研)

<https://www.dcrpi.or.jp/>

